

大阪大谷大学 教職教育センター紀要

第 5 号

大阪大谷大学教職教育センター紀要第 5 号発刊にあたって	仲野 務… 1
《研究ノート》	
講義におけるクリッカーの活用 ——双方向型授業の展開に向けて——	岡崎 裕子… 2
保健体育科教員養成における学校現場研修の取り組み	三木 伸吾… 8
「体罰」を容認する意識はどのように増幅したのか（その 2）	鍛冶 彰… 21
《資料紹介》	
中学校学習指導要領社会科の変遷（2） ——授業内容の変遷——	松田 智弘… 38
《特別寄稿》	
『数学の匂い』のする算数指導の一考察 ——退職に寄せて——	仲野 務… 45
教職をめざす学生への支援（5 年間）を振り返って ——退職に寄せて——	徳田喜代士… 51
社会をナナメに見る視点 ——大阪大谷大学における教育活動の輪郭——	田中 伸… 58
《事業報告》	
平成 25 年度「大阪大谷大学教職教育センター」事業報告	仲野 務… 65 峯山美智子 川合 智子 岡崎由紀美
教師のお仕事入門 ——教師をめざして、自主的な学びへのプロローグ——	浦部 孝英… 79

2014 年 3 月

大阪大谷大学教職教育センター

Osaka Ohtani University

Teacher Training Support Center Bulletin

Volume 5

Message from the Center Director	NAKANO, Tsutomu	1
《Research Notes》		
Interactive Lecture Using of Clickers	OKAZAKI, Yuko	2
Practical Training Activities in Health and Physical Education Teacher Training	MIKI, Shingo	8
How does a Sense that Permits “Corporal Punishment” Become Pervasive? (2)	KAJI, Akira	21
《Documentation》		
Postwar Human Resource Development Seen from the Curriculum Guideline of Social Studies at Lower Secondary Level and its Transitions (2)	MATSUDA, Tomohiro	38
《Retirement Messages》		
Considerations on Arithmetic Teaching that Has “Mathematics Nuance”	NAKANO, Tsutomu	45
Reflecting My Five-Year Supports for Students who Wish to Become Teachers	TOKUDA, Kiyoshi	51
Multiple Perspectives toward Society : Outline of Educational Activities at Osaka Ohtani University	TANAKA, Noboru	58
《Activity Reports》		
Overview of Teacher Training Support Center Activities in 2013	NAKANO, Tsutomu MINEYAMA, Michiko KAWAI, Tomoko OKAZAKI, Yukimi	65
Introductory Program for Teaching Profession as a Prologue of Self-directed Learning for Becoming Teachers	URABE, Takahide	79

Teacher Training Support Center
Osaka Ohtani University

【事業報告】

平成 25 年度
「大阪大谷大学教職教育センター」事業報告

仲野 務* ・ 峯山美智子**
川合 智子*** ・ 岡崎由紀美****

I. 平成 25 年度

1. 新たな試み

平成 25 年度は、教職に関する科目に新設された「教職実践演習」が初めて開講された。前年度から担当教員による会議が行われ、其々が授業計画を建て実施されたが、終了後に実施した担当教員へのアンケートを見ると、概ね計画通りに実施できた場合と、計画どおりに進まなかった場合がある。次年度以降は、問題点を改善できるようアンケート結果を参考にしていきたい。

2. 組織および配置

平成 25 年度の教員、職員の配置は次のとおりである。

教員：センター長（兼務） 1 名

センター教員（兼務） 2 名

教職教育担当特任教授 2 名

職員：教職支援課 課長 1 名、係長 1 名、課員 1 名

派遣職員 2 名（合計：専任 3 名、派遣 2 名）

センター長および、教職教育担当特任教授の業務内容も変更なく運営に携わっていただいた。

教職教育センター室の開室時間

平成 21 年度 9:00～17:30

平成 22～25 年度 9:00～11:20 12:20～17:30

*大阪大谷大学教職教育センター長

**大阪大谷大学教職支援課長

***大阪大谷大学教職支援係長

****大阪大谷大学教職支援係

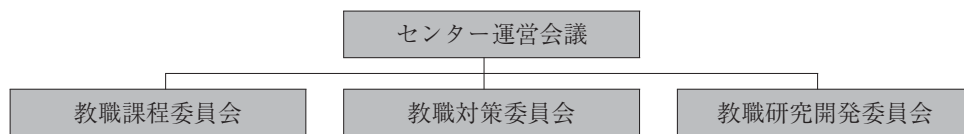
Ⅱ. 業務内容

1. 教職支援課の役割

これからの教員に求められる資質能力の一つに「『学び続ける教員像』の確立」とあるが、教職教育センターでは在學生はもとより、卒業生へのサポート拠点としての役割も担っている。平成 25 年度は、教科だけでなく教職に関する専門的知識の向上を目指し、十分な配慮をもって学生指導に努めた。本学に入学し、学生自身の目標に向かって、大学で何を学ぶのかを真剣に考え、社会に貢献できる教員となって巣立ってほしいと願っている。

2. 委員会

教職教育センター運営会議をはじめ教育職員養成課程委員会（以下、教職課程委員会と表記）、教職対策委員会、教職研究開発委員会を 3 本柱にしてセンターを運営している。



センター運営会議

第 1 回

日時：平成 25 年 10 月 23 日（水）12 時 15 分～13 時 00 分

場所：センター会議室

議題：平成 25 年年度 教採の振り返りについて

行事内容について

教職課程委員会

第 1 回

日時：平成 25 年 4 月 17 日（水）12 時 20 分～12 時 50 分

場所：センター会議室

議題：教職課程委員長選出について

平成 25 年度の教育実習等（訪問担当）について

平成 25 年度免許更新講習実施について

平成 25 年度教職課程予算について

第 2 回

日時：平成 25 年 6 月 26 日（水）16 時 20 分～17 時 30 分

平成 25 年度 「大阪大谷大学教職教育センター」 事業報告

場所：センター会議室

議題：平成 25 年度「介護等の体験」共通理解および和泉支援学校受付について
免許状更新講習規程（案）について
文化財学科の名称変更届けについて
「教職実践演習」実施について
科目等履修生の「教職実践演習」について

第 3 回

日時：平成 25 年 11 月 13 日（水）12 時 15 分～13 時 00 分

場所：センター会議室

議題：「教育職員養成課程に関する規程」改訂について
平成 25 年度「教育実習」の課題について
平成 25 年度「介護等の体験」の課題について
「免許状更新講習規程（案）」について

第 4 回（教職対策委員会・教職研究開発委員会合同）

日時：平成 25 年 12 月 4 日（水）15 時 50 分～16 時 30 分

場所：3-208（授業模擬実践室）

議題：「100 名合格プロジェクト（案）」について

第 5 回

日時：平成 26 年 2 月 26 日（水）16 時 00 分～17 時 20 分

場所：センター会議室

議題：平成 26 年度「教育実習日誌」「教育実習依頼について（内諾冊子）」について
平成 25 年度「教育実習」について

教職対策委員会

第 1 回

日時：平成 25 年 7 月 3 日（水）12 時 20 分～12 時 45 分

場所：センター会議室

議題：「基礎学力向上講座（タニ☆スタ 6）」実施報告について
平成 25 年度関東地区教員採用選考テスト会場へのバス運行について
教員採用選考テスト出願状況について
「教職基礎演習」について

第 2 回（教職課程委員会・教職研究開発委員会合同）

日時：平成 25 年 12 月 4 日（水）15 時 50 分～16 時 30 分

場所：3-208（授業模擬実践室）

議題：「100 名合格プロジェクト（案）」について

第 3 回（メール会議）

日時：平成 25 年 12 月 25 日（水）

場所：メール配信による

議題：平成 26 年度「教職基礎演習」担当者について

教職研究開発委員会

第 1 回（メール会議）

日時：平成 25 年 5 月 2 日（木）

場所：メール配信による

議題：委員長・副委員長の選出

第 2 回（教職課程委員会・教職対策委員会合同）

日時：平成 25 年 12 月 4 日（水） 15 時 50 分～16 時 30 分

場所：3-208（授業模擬実践室）

議題：「100 名合格プロジェクト（案）」について

3. 教職課程・教育実習・介護等の体験

《教職課程》

平成 25 年度入学生では、文学部日本語日本文学科、文化財学科、教育学部教育学科、人間社会学部人間社会学科、スポーツ健康学科の 5 学科に教職課程が設けられている。

本学で取得できる免許状は、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状（国語・外国語（英語）・社会・保健体育）、高等学校教諭一種免許状（国語・外国語（英語）・地理歴史・公民・保健体育・福祉）、特別支援学校教諭一種免許状（領域：知的障害・肢体不自由・病弱）。

《教育実習》

教育実習に行く前年度に、教育実習内諾オリエンテーションを実施し出席する人数等で教育実習を希望する学生数を把握している。平成 23 年度から平成 25 年度の人数は表 1 のとおりである。（「教育実習生数」には、科目等履修生を含む。）

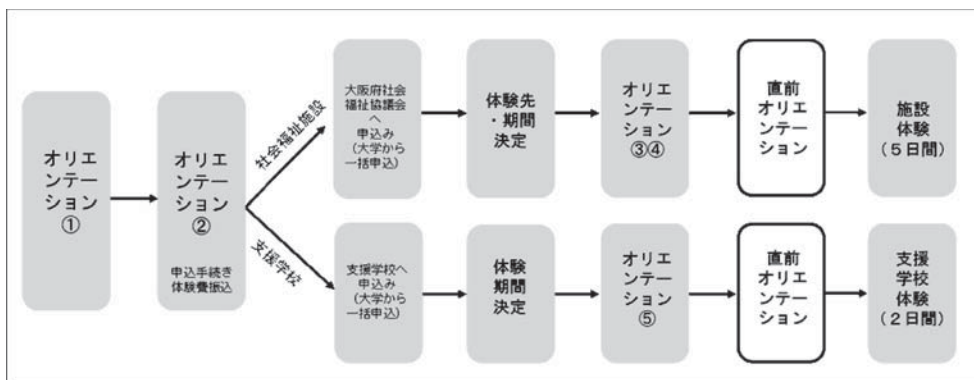
表 1 内諾オリエンテーションおよび教育実習生数一覧

年度	校種	内諾オリエンテーション出席者数	教育実習生数
23 年度 実習	幼稚園	103	102
	小学校	147	139
	中・高等学校	179	154
	特別支援学校	115	101
	計	544	496
24 年度 実習	幼稚園	68	63
	小学校	162	152
	中・高等学校	169	149
	特別支援学校	102	95
	計	501	459
25 年度 実習	幼稚園	103	96
	小学校	102	128
	中・高等学校	162	130
	特別支援学校	110	104
	計	477	458

《介護等の体験》

センターで業務を開始して4年が経過した。新しく浮上した問題点を考慮し、オリエンテーションの実施方法等は毎年改善を試みている。平成24年度は、出席率は向上したが、オリエンテーション終了から体験開始までの期間が長い場合、モチベーションが下がる問題点があり、平成25年度前期申込み学生からは、体験1か月前に直前オリエンテーションを実施することにした。その目的は、体験に対する心構えを再度確認するもので、昼休みを利用して実施した。これにより、体験意欲の向上につながり提出書類の不備などが激減した。

平成 25 年度「介護等の体験」オリエンテーションの流れ



平成 25 年度 「大阪大谷大学教職教育センター」 事業報告

しかし、一部の学生においては、オリエンテーションの内容を理解しないまま体験に行き、施設へご迷惑をかける事態になる場合がある。今後も「介護等の体験」の意義や内容理解に重点を置き指導に努めていきたい。

表 2 介護等の体験者数

	学科	申込者数		終了者数※	
		前期	後期	前期	後期
平成 23 年度	日本語日本文学科	9	10	8	10
	英米語学科	1	13	1	13
	文化財学科	7	2	4	1
	教育福祉学科	13	72	12	71
	人間社会学科	9	43	9	38
	科目等履修生	0	1	0	1
	計	39	141	34	134
平成 24 年度	日本語日本文学科	15	4	12	4
	英米語学科	3	5	3	5
	文化財学科	4	3	4	3
	教育福祉学科	23	96	21	91
	人間社会学科	24	27	21	25
	科目等履修生	0	2	0	2
	計	69	137	61	130
平成 25 年度	日本語日本文学科	4	9	4	9
	英米語学科	5	11	5	10
	文化財学科	9	7	7	7
	教育福祉・教育学科	26	116	23	113
	人間社会学科	11	60	8	58
	科目等履修生	0	2	0	2
	計	55	205	47	199

※…施設 5 日間、支援学校 2 日間両方の体験終了者数

4. 免許状更新講習

今年度は、平成 24 年度と同じく 4 講習を実施した。

表 3 免許状更新講習参加者数

年度	講座名	領域	実施日	時間数	定員	受講者数
平成 23 年度	特別支援教育講座	選択	8 月 1 日 (月)～3 日 (水)	18	50	73
	幼児教育講習	選択	8 月 4 日 (木)	6	60	35
	学校教育講習	選択	8 月 5 日 (金)	6	60	31
	計					139
平成 24 年度	特別支援教育講座	選択	8 月 3 日 (金)～7 日 (火)	18	50	57
	幼児教育講習	選択	8 月 6 日 (月)	6	60	17
	学校教育講習	選択	8 月 7 日 (火)	6	60	21
	中学・高等学校教育講習	選択	8 月 8 日 (水)	6	60	8
	計					103
平成 25 年度	特別支援教育講座	選択	8 月 2 日 (金)～6 日 (火)	18	50	44
	幼児教育講習	選択	8 月 5 日 (月)	6	60	13
	学校教育講習	選択	8 月 6 日 (火)	6	60	4
	中学・高等学校教育講習	選択	8 月 7 日 (水)	6	60	4
	計					65

5. 教職教育センターレポート

専任教員には、教職教育センターで実施している行事の案内や、教員採用試験の情報を報告し、センターの存在を PR する手段として「教職教育センターレポート」をメール配信している。

今年度の内容は以下のとおりである。

号 数	配信年月日・内容
25-1 号	平成 25 年 5 月 14 日 ・「教師のお仕事入門」(小学校体験)のご案内 ・「教採学内セミナー」のご案内 ・教育実習について ・介護等の体験について
25-2 号	平成 25 年 6 月 13 日 ・H 26 年度採用 教員採用試験 関東地区へのバス運行について ・一次試験の面接対策実施中です。
25-3 号	平成 25 年 7 月 23 日 ・H 26 夏期集中 教員採用試験「一般教養対策講座」のご案内 ・関東地区受験バス運行の報告 ・9 月に実施する「教師のお仕事入門」のご案内

6. 大阪大谷大学教職教育センター紀要

「大阪大谷大学教職教育センター紀要」第 5 号を発行。

Ⅲ. 大学教育・学生支援推進事業（学生支援推進プログラム）の継続

名称：『免許を「とりたい」から教員に「なりたい」へつなぐ学生就職支援』

期間：平成 21 年度～平成 23 年度

内容：『教師の仕事入門講座』『学力向上基礎講座』『現場実践経験基礎講座』

1. 『教師の仕事入門講座』、『現場実践経験基礎講座』

継続事業として「教師のお仕事入門」「実践アクセス講座」を実施している。「教師のお仕事入門」は、近隣の小学校、中学校、高等学校にご協力いただき学校現場を訪問し、児童・生徒との交流を目的としている。「実践アクセス講座」は、現職教員、指導主事等の講師をお招きし、学校現場の現状を講義していただく授業を公開している。これらは、現場経験のない学生に、実践的指導力を身につける貴重な機会と考えている。今年度の「実践アクセス講座」は、表 4 のとおり実施した。


表 4 平成 25 年度「実践アクセス講座」一覧

	月日	テーマ	講師	科目
1	4月19日(金)	教職をめざすにあたって大切にしたいこと	墨村 未来士	学校教育演習Ⅱ
2	4月26日(金)	教員をめざすにあたって	松本 康克	学校教育演習Ⅱ
3	5月10日(金)	学力の向上をめざして	長見 元雄	学校教育演習Ⅱ
4	5月17日(金)	生徒指導の課題「いじめ・不登校を中心に」	大槻 亮志	学校教育演習Ⅱ
5	5月24日(金)	人権教育の課題	明石 一郎	学校教育演習Ⅱ
6	10月18日(金)	小学校における総合的な学習の実践	上山 清貴	総合的学習の研究
7	10月18日(金)	学級集団づくりの実践	大西 亮一	学校教育演習Ⅰ
8	11月1日(金)	小学校における総合的な学習の実践	矢野 智史	総合的学習の研究
9	11月1日(金)	生徒指導、学習指導で大切にしたいこと	熊谷 啓子	学校教育演習Ⅰ
10	11月22日(金)	中学校における総合的な学習の実践	森山 伸治	総合的学習の研究
11	11月22日(金)	授業づくりの実践	山本 章	学校教育演習Ⅰ
12	1月10日(金)	教員を目指すにあたって大切にしたいこと	岩井 智代子	学校教育演習Ⅰ

2. 『学力向上基礎講座』

平成 24 年度からの継続事業である「基礎学力向上講座」(学内通称名「タニ☆スタ 6」)は、2 年目を迎えた。前年度のクラス編成に改良を加え、理解度別にクラスを設置し、学生が自分に合ったクラスを選べるようにした。開講時間は、授業終了後の 6 限を利用している。受講者募集のために、図 1 のチラシを作成し全学生に配付した。受講を希望する学生のクラス分けテスト受験結果と、提出された受講希望理由書でクラス分けを行った。前期実施の 2 クラスは、7 月の教員採用試験を目前にした学生が受講しているせいか意気込みが感じられる講義風景だった。

教職教育センター主催
H25 年度「基礎学力向上講座(学内名称:タニ☆スタ 6)」
のご案内



教員採用試験合格を目指し、みんなで頑張ろう!

基礎学力向上講座

クラス分けテスト

①3月29日(金) 10:00~
6~201教室
②4月29日(金) 13:00~
6~101教室
予備日 4月5日(金)14:40~
1~101教室

■受講料 不要
■講師 東京アカデミー 講師
■テキスト代 ¥1300~¥3900 (クラスにより異なります)
■開講時間 18:00~19:30
■教室 学内(後日掲示します)
■募集クラス A・B・C・D・E

■詳細

クラス名	実施内容	実施教科
A 通年5教科発展クラス	問題演習を中心とした授業です。本書での得点カギを習います。	国語・社会・英語 数学・理科
B 通年5教科基礎クラス	教員での提出領域の基本事項を押しさえ、得点力を伸ばします。	国語・社会・英語 数学・理科
C 通年5教科発展クラス	基本事項を確認しながら、問題演習を交え、実力を伸ばします。 H24年度「タニ☆スタ6」受講生におススメです。	国語・社会・英語 数学・理科
D 通年理系クラス	初歩的な問題を確実に正解できる力を養います。	数学・理科
E 通年文系クラス	初歩的な問題を確実に正解できる力を養います。	国語・英語・社会

■申込手順

①クラス分けテストを受験します。

②クラス分けテストの結果を基に、申込用紙を教職教育センターへ送付させていただきます。

③申込用紙を教職教育センターで受け取ります。

④申込用紙を提出し、申込用紙を教職教育センターへ送付させていただきます。

⑤申込用紙を提出し、申込用紙を教職教育センターへ送付させていただきます。

⑥申込用紙を提出し、申込用紙を教職教育センターへ送付させていただきます。

⑦申込用紙を提出し、申込用紙を教職教育センターへ送付させていただきます。

⑧申込用紙を提出し、申込用紙を教職教育センターへ送付させていただきます。

⑨申込用紙を提出し、申込用紙を教職教育センターへ送付させていただきます。

⑩申込用紙を提出し、申込用紙を教職教育センターへ送付させていただきます。

■受講の条件(注意事項)

1. 受講申込書・希望理由書(200字以内)を申込時に提出すること
2. 欠席せず、続けること
3. 教員採用試験の受験番号・結果を必ず報告すること(4回生)

図 1 「タニ☆スタ 6」 チラシ

「通年 5 教科発展クラス (C クラス)」は、受講希望者が募集定員を大幅に超えたため急遽「C' クラス」を設けた。「通年理系クラス (D クラス)」も理解度別に「D' クラス」を設け、なるべく学生の希望に添えるように配慮した。

昨年度の課題であった選に漏れた学生への対応として、C' や D' を設定したことにより学生の満足度は上がったと考える。

表 5 「タニ☆スタ 6」 クラス別受講者数

学部	学科	学年	A	B	C	D	E	合計
文学部	日本語 日本文学科	4	2	2				4
		3				3		3
		2				1	2	3
	英米語学科	1		1				1
		4		2				2
		3			1			1
文化財学科	4		1				1	
教育福祉学部	教育福祉学科	4	14	5			1	20
教育学部	教育学科	3			10	3	4	17
		2			4	9	10	23
		1			21	11	9	41
人間社会学部	人間社会学科	4	1	2				3
		3	1					1
		1			1	1	2	4
	スポーツ健康 学科	2			1			1
		1					3	3
合計			18	13	38	28	31	128

表 6 「タニ☆スタ 6」 ダッシュクラス別受講者数

学部	学科	学年	C'	D'	合計
文学部	日本語日文学科	3		1	1
		2		2	2
	文化財学科	2	2		2
教育学部	教育学科	3	10	5	15
		2		2	2
		1	13	3	16
人間社会学部	人間社会学科	3	1	1	2
	スポーツ健康 学科	2	4		4
		1		1	1
科目等履修生				1	1
合計			30	16	46

IV. 行事報告

センターで実施する行事は、前年度末に翌年度 1 年間分の行事を計画するが、実際に新年度が始まり、教員採用の動向や学生のニーズに合わせ、計画を変更する場合も多い。

今年度特記すべき行事は下記のとおりである。

1. 人間社会学部との連携

昨年に引き続き、人間社会学部 1 回生の「基礎ゼミ I (学習技術)」の授業時間に、教職に関する情報提供を行った。

日時：平成 25 年 11 月 13 日 (水) 2 限

対象：人間社会学部 1 回生 191 名

(内訳：人間社会学科 80 名、スポーツ健康学科 111 名)

その後、12 月 3 日に実施した 1 回生対象「教職オリエンテーション」の参加者のうち人間社会学部は、昨年の 2 名から 4 名へと増加。また、11 月 13 日の話を聞いた学生が昨年よりも多くセンターを訪れ、参考書の貸出等に効果が表れた。

人間社会学部 1 回生への参考書貸出件数：H 25 「4 件」(H 24 は「0 件」)

他にも、人間社会学部教員の協力を得て、ゼミ単位でのセンターツアーを実施した。センター内を案内するとともにセンターの役割や支援内容及び教員採用試験の概要などを説明した。

これらの取り組みは、早期からの意識付けにつながるもので、他学部にも広げていきたいと考えている。

2. 4 回生対象「面接対策講座」

教員採用試験直前の前期に 7 回実施している。内容及び使用テキストを平成 25 年度より一新した。テキストは書き込み式で、自分で完成させるタイプのものを使用し、講座の内容は、グループワーク等の演習形式が中心で、適宜、教員よりコメントやアドバイスを入れ進められた。学生がお互いに良いところや改善点に気づき、モチベーションアップにつながるよう構成した。

参加者数：述べ 226 名 (平成 24 年度 308 名)

前年度より、80 名程度の減少となっているが、受験生が多い大阪府や大阪市の教員採用試験で、教師塾修了等による一次試験免除者が 32 名いたことを考えると、減少したと一概には言えない。むしろ学年全体に意欲や活気があったと捉えている。

3. エントリーシート対策

教員採用試験募集要項の発表時期が早まっていることなどから、試験対策を早める必要性があり、後期授業終了後に教職オリエンテーション「エントリーシート対策」を実施した。

日時：平成 26 年 2 月 26 日 (水) 4 限

(「教員採用筆記試験講座」の日程に合わせて実施)

参加者数：64 名

4. 教員チャレンジテスト（仮称）対策

大阪府教育委員会は、平成 25 年 10 月 25 日の教育委員会議で、平成 26 年度より大学 2・3 回生や社会人を対象とした「教員チャレンジテスト」を実施し、教職教養などについて一定水準をクリアすれば、翌年度から 2 年間、大阪府教員採用選考テストの 1 次選考における筆答テストを免除することを決めたと、新聞各紙で報道された。

後期授業終了後は、例年「一般教養対策講座」と「教職教養対策講座」を実施しているが、急遽 1・2 回生を対象とした「チャレンジテスト対策講座」を企画し、実施することとした。

表 7 春季対策講座受講者数

学年	平成 24 年度					平成 25 年度				
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計
一般教養対策講座	3	6	55	4	68	0	2	92	0	94
教職教養対策講座	7	3	71	6	87	1	5	115	0	121
チャレンジテスト対策講座						30	44	1	0	75
合計	10	9	126	10	155	31	51	208	0	290

一般教養や教職教養の講座も、年々受講者が増加する傾向にあるが、昨年まであまり受講していなかった 1・2 回生がチャレンジテスト実施の話に敏感に反応し対策講座を受講していることで、今までより早い時期から教員採用試験を意識していると考えられる。

ここに挙げた以外の行事参加人数は、次頁表 8 のとおりである。

以上、平成 25 年度の教職教育センター事業活動をまとめた。

平成 26 年度も、センター教職員一同新たな気持ちで、教職を目指す学生の支援を一層充実させていきたいと願っている。

平成 25 年度 「大阪大谷大学教職教育センター」 事業報告

表 8 行事参加人数表

カテゴリ	日(曜)	時間	行事名	内容	参加人数	
教採学内セミナー	4/10(水)	13:00-16:30	4回生 教採学内セミナー (大阪府・大阪市・堺市)	(事前申し込み制) 教育委員会講師による説明会 各自治体の教員採用試験について、直接説明を聞く事ができます	75	
	5/9(木)	昼休 12:15-12:55	川崎市教員採用試験説明会	教育委員会講師による説明会 川崎市の教員採用試験について、直接説明を聞く事ができます	3	
	5/15(水)	4・5限 14:40-17:50	4回生 教採学内セミナー (和歌山県・奈良県・京都府・兵庫県)	(事前申し込み制) 教育委員会講師による説明会 各自治体の教員採用試験について、直接説明を聞く事ができます	36	
	12/18(水)	4・5限 14:40-17:50	3回生 教採学内セミナー(近隣教育委員会)	教育委員会講師による説明会(事前申し込み制) 各自治体の教員採用試験について、直接説明を聞く事ができます	48	
4回生対象 教員採用試験対策講座	実技等	6/26(水)	昼休 12:15-12:55	4回生 教員採用(幼稚園含む) 特別対策講座 小論文	文章を書く際の注意点や原稿用紙の使い方など、教育学部の教員より説明、その後は個別指導	12
		8/6・7・8(火・水・木)	午前	4回生 教員採用(幼稚園含む) 特別対策講座 体育実技	跳び箱、マット、ハードル、ボール運動、水泳について 教育学部教員、教職教育センター教員、外部講師で指導	37
	筆記	5/29(水)	13:30~	4回生 教員採用(幼稚園含む) 特別対策講座 音楽実技	教員採用試験の試験官が評価するポイントや注意点について 教育学部の教員より説明、その後、各自の演奏曲決定と練習	19
		5/11(土)	4限 14:40-16:10	4回生 教員採用試験 筆記対策講座	小・中・高・特支・政令指定都市の幼 直前対策 外部講師による講演	36
	面接	5/22(水)	5限 16:20-17:50	4回生 幼稚園教員採用試験 筆記対策講座	幼稚園教員希望者 直前対策 外部講師による講演	3
		7/3(水)	4限 14:40-17:50	4回生 教員採用試験 特別支援教育対策講座	採用試験で押さえておくポイントについての講義	46
		4/16(火)	5限 16:20-17:50	4回生 教員採用試験面接対策講座	面接・エントリーシート対策 志望動機・自己PRのつくりにかた	125
		4/26(金)	5限 16:20-17:50	4回生 教員採用試験面接対策講座 <予備日>		
		5/21(火)	5限 16:20-17:50	4回生 教員採用試験面接対策講座	エントリーシート・面接対策(主に集団面接) 注意と心得及び自己PR	52
		5/24(金)	5限 16:20-17:50	4回生 教員採用試験面接対策講座 <予備日>		
		6/26(水)	4・5限 14:40-17:50	4回生 教員採用試験 面接対策講座 実践編	模擬面接 自己PR・志望動機を中心に	25
		7/3(水)	5限 16:20-17:50	4回生 教員採用試験 面接対策講座 実践編	模擬面接・集団討論 自己PR・志望動機・現場での課題等	18
	7/31(水)	4・5限 14:40-17:50	4回生 教員採用試験 面接対策講座 二次編	模擬面接(個人)・集団討論・模擬面接対策等 講義及び実践 二次試験対策	5	
	教職オリエンテーション	1回生	6/11(火)	昼休 12:15-12:55	1回生 教職オリエンテーション 学校の先生になりたい人へ	学校の先生になるには?
12/3(火)			昼休 12:15-12:55	1回生 教職オリエンテーション	どんな勉強をするの?	22
2回生		6/4(火)	昼休 12:15-12:55	2回生 教職オリエンテーション 教職を目指すにあたって	小・中・高・特支・政令指定都市の幼 勉強の進め方、資質の向上について講義	201
		10/16(水)	4限 14:40-16:10	2回生 教職オリエンテーション 教職を目指すにあたって	小・中・高・特支 勉強の進捗チェックおよび資質の向上について講義	25
3回生		5/18(土)	3限 13:00-14:30	3回生 教職オリエンテーション 教職を目指すにあたって	学習方法・情報収集について 幼稚園を除く全校種 外部講師による講演	48
		10/2(水)	5限 16:20-17:50	3回生 教職オリエンテーション 筆記試験対策を中心に	<小・中・高・特支・政令指定都市の幼> 教員採用試験の傾向と対策 次年度の採用試験に向けて、外部講師による講演	74
		11/20(水)	4限 14:40-16:10	3回生 教職オリエンテーション 教員採用試験対策	秋から始める勉強について 教員採用試験体験談(4回生との交流)	44
		1/8(水)	4限 14:40-16:10	3回生 教職オリエンテーション 教員採用試験情報 一般・教職教養対策を中心に	次年度の教員採用試験に向けてのフロンティアアドバイス 外部講師による講演(有料講座の募集案内を含む)	82
		2/15(土)	4限 14:40-16:10	3回生 教職・幼稚園オリエンテーション 教員・幼稚園教員の魅力と採用試験について	卒業生との懇談会 有料講座の日程に併せて実施	約40名
		2/26(水)	4限 14:40-16:10	3回生 教職・幼稚園オリエンテーション エントリーシート対策について	エントリーシート記入についての心得や注意点について説明	64
幼稚園オリエンテーション	1回生	6/25(火)	昼休 12:15-12:55	1回生 幼稚園オリエンテーション 幼稚園の先生になりたい人へ	幼稚園の先生になるには?	28
		12/13(金)	昼休 12:15-12:55	1回生 幼稚園オリエンテーション	スキルを磨こう	4
	2回生	6/18(火)	昼休 12:15-12:55	2回生 幼稚園オリエンテーション 幼稚園教員を目指すにあたって	幼稚園教員希望者 勉強の進め方、資質の向上について講義	108
		11/6(水)	4限 14:40-16:10	2回生 幼稚園オリエンテーション 幼稚園教員を目指すにあたって	幼稚園教員希望者対象 勉強の進捗チェックおよび資質の向上について講義	19
	3回生	5/21(火)	昼休 12:15-12:55	3回生 幼稚園オリエンテーション 幼稚園教員を目指すにあたって	学習方法・情報収集について (私立幼稚園を含む)	77
		5/31(金)	昼休 12:15-12:55	3回生 幼稚園オリエンテーション 幼稚園教員を目指すにあたって<予備日>	(注)予備日は開講しないこともあります。	
		11/27(水)	4限 14:40-16:10	3回生 幼稚園オリエンテーション 幼稚園教員採用試験対策	秋から始める勉強について 教員採用試験体験談(4回生との交流)	23
全	10/30(水)	5限 16:20-17:50	幼稚園・保育所・福祉施設ガイド	採用試験に向けての学習対策 外部講師による講演(就職課と合同実施)	46	

平成 25 年度 「大阪大谷大学教職教育センター」 事業報告

カテゴリ	日(曜)	時間	行事名	内容	参加人数	
お仕事入門	6/5(水)	午前	1回生 教師のお仕事入門(小学校①)	授業見学&児童との交流 グループに分かれて、教室を訪問 場所 小 学 校・・・富田林市立錦織小学校 小・中 学 校・・・堺市立さつきの小学校・中学校 高等学校①③・・・大阪府立富田林高等学校 高等学校②④・・・大阪府立河南高等学校	45	
	7/3(水)	午前	1回生 教師のお仕事入門(小学校②)		30	
	9/10(火)	終日	1回生 教師のお仕事入門(小・中学校①)		12	
	9/17(火)	午前	1回生 教師のお仕事入門(高等学校校①)		9	
	9/18(水)	午前	1回生 教師のお仕事入門(高等学校校②)		9	
	9/19(木)	終日	1回生 教師のお仕事入門(小学校③)		23	
	H26/2/4(火)	午前	1回生 教師のお仕事入門(高等学校校③)		5	
	H26/2/12(水)	終日	1回生 教師のお仕事入門(小・中学校②)		5	
H26/2/13(木)	午前	1回生 教師のお仕事入門(高等学校校④)	5			
教師塾	説明会	5/7(火)	昼休 12:15-12:55	3・4回生 大阪市教師養成講座説明会	大阪市教育委員会担当講師による説明	27
		5/10(金)	昼休 12:15-12:55	3・4回生 堺・教師ゆめ塾説明会	堺市教育委員会担当講師による説明	21
		5/14(火)	昼休 12:15-12:55	3回生 大阪教志セミナー説明会	大阪府教育委員会担当講師による説明	83
		5/15(水)	17:30-18:00	3回生 ディア・ティーチャー・プログラム説明会	奈良県教育委員会担当講師による説明	8
	対策講座	5/18(土)	10:00-12:00	3・4回生 教師塾 面接・エントリーシート対策	各教育委員会が主催する教師塾に入塾するための対策先輩のお話を聞き面接やエントリーシート作成の説明	38
講師登録説明会	9/24(火)	5限 16:20-17:50	4回生 講師登録説明会	講師の採用について 概要説明と登録の方法について説明	登録者 124名	
	11/1(金)	5限 16:20-17:50	4回生 講師登録説明会 <予備日>			
ボランティア	4/19(金)	5限 16:20-17:50	学校支援学生ボランティア説明会・研修会	平成25年度にボランティア活動を行う予定の学生を対象にボランティア登録の手続き、ボランティア先の探し方などについて説明	登録者 75名	
	H26/2/4(火)	2限 10:40-12:10	学校支援学生ボランティア修了式	平成24年度にボランティア登録をし、活動を行った学生を対象に代表者が体験談を発表し、全員に修了証書を授与	修了証授与者 44名	
教職模試	4/6(土)	9:30-12:50	教職模試①(出題:時事通信出版局) 有料	教員採用試験受験予定者を対象とする 学年は問わない 4月13日(土)の模擬試験 教職基礎演習のプレースメントテストを兼ねる 1月11日(土)実施の模擬試験 教職基礎演習のアチーブメントテストを兼ねる	27	
	4/13(土)	9:30-12:50	教職模試②(出題:東京アカデミー) 有料		140	
	4/27(土)	9:30-13:20	教職模試③(出題:時事通信出版局) 有料(補助あり)		25	
	5/11(土)	9:30-12:50	教職模試④(出題:東京アカデミー) 有料		33	
	6/1(土)	9:30-13:20	教職模試⑤(出題:時事通信出版局) 有料(補助あり)		29	
	12/7(土)	9:30-12:30	教職模試⑥(出題:時事通信出版局) 有料		17	
	H26/1/11(土)	9:30-12:50	教職模試⑦(出題:東京アカデミー) 無料		165	
	H26/2/8(土)	9:30-12:30	教職模試⑧(出題:協同出版) 有料		12	
有料講座	短期集中	7/12(金)	昼休 12:15-12:55	教員採用試験対策講座案内他 説明会	有料講座の募集案内や情報収集方法などについて説明	24
		8月	2・3・4限	一般教養対策講座	時事通信社担当講師による講義	25
		2月	2・3・4限	教職教養対策講座	次年度以降の採用試験に向けての学習対策	121
		2月	2・3・4限	教職教養対策講座		94
		3月	2・3・4・5限	チャレンジテスト対策講座	時事通信社担当講師による講義。次年度以降のチャレンジテストに向けての学習対策	75

【事業報告】

教師のお仕事入門

—教師をめざして、自主的な学びへのプロローグ—

浦部 孝英*

1. はじめに

1 回生の時点では、学生の「教職に対するモチベーションの程度」は様々である。「教員免許の取得」をゴールとする学生もいれば、「教員採用選考テスト（以下「教採」という。）の合格」を夢とする学生もいる。教職教育センター（以下「センター」という。）では、一人でも多くの学生がその夢を達成することができるように各種の事業を展開しているところであるが、例えば、公開講座として実施している「実践アクセス講座」は、「大学に居ながらにして学べる学校現場という仕掛け」であり、前者、後者どちらの学生にとっても、「教育現場を理解する」ことのできる有り難い講座となっている。しかし、「学生の自主性を引き出す」という視点で見れば、その期待値は低く、どちらかと言えば、受け身的な仕掛けとなっている。

これに対して、「教師のお仕事入門」事業は、後者はもちろん、前者の学生にとっても、個人ではなかなか体験できない学校現場に「1 回生の段階で体験できる仕掛け」となっている。教室での児童・生徒の笑顔や、ひたむきに教える教師の姿など、学生の心の琴線に触れるような出来事や出会いにより、その後の大学生活において、教職への高いモチベーションを保持するとともに、「夢の達成に向けての自主的な学び」をスタートさせるきっかけとなることが期待されている。

この稿では、本事業の本年度の概要について報告するとともに、入門を体験した学生の意識変化にも触れながら、その成果と今後の課題について記すことにする。

2. 目的

- (1) 小学校・中学校・高等学校を自主的に訪問し、現在の学校現場の実態を学ぶことで、「自分なりの教師像」について考える。

*大阪大谷大学教職教育センター担当教授

教師のお仕事入門

- (2) 児童・生徒の学びの様子を知るとともに、教職員の職務の一端を間近で体験し、理解を深めることで、教師として必要な資質や能力の向上を図ろうとする意欲を養う。

3. 対象者

- (1) 文学部（日本語日本文学科、文化財学科）・教育学部（教育学科）・人間社会学部（人間社会学科、スポーツ健康学科）の1回生で、職業選択の一つとして、教職を視野に入れている学生。
- (2) 社会人としての自覚をもち、児童・生徒が学ぶ教育現場にふさわしい態度や行動等を遵守できる学生。

4. 体験受入校・実施日時・参加人数

◆事前説明会

- ①平成25年5月29日（水）昼休み……6/5（水）、7/3（水）実施分
②平成25年7月26日（金）昼食み……9/10（火）、9/17（火）、9/19（木）実施分
③平成26年1月21日（火）昼休み……2/4（火）、2/12（水）、2/13（木）実施分

◆小学校……富田林市立錦郡小学校

- 第1回 平成25年6月5日（水）午前中……43名
第2回 平成25年7月3日（水）午前中……29名
第3回 平成25年9月19日（木）全日……22名

◆小中一貫校……さつき野学園（堺市立さつき野小学校・堺市立さつき野中学校）

- 前期 平成25年9月10日（火）終日……12名
後期 平成26年2月12日（水）終日……5名

◆高等学校……大阪府立富田林高等学校

- 前期 平成25年9月17日（火）午前中……9名
後期 平成26年2月4日（火）午前中……5名

◆高等学校……大阪府立河南高等学校

- 前期 平成25年9月18日（水）午前中……9名
後期 平成26年2月13日（木）午前中……5名

5. 実施概要

(1) 小学校

まず、校長先生より、錦郡小学校の取組みや児童の様子等の説明を受けた。その後、各学級や支援学級に分かれ授業参観をさせていただいた。第3回（9月実施）は全日体験であったので、授業の参観だけでなく、給食や掃除、休み時間等を通じて児童と交流することができ、児童理解をさらに深めることができた。

終了後、毎回必ず参加学生全員が当日の感想を発表し合う「振り返り活動の時間」を設定している。この取組みは、「教師になりたいという学生の思い」が、この入門を通してどのように変化していったかをお互いに共有しあえる有意義な時間となった。

(2) 小中一貫校

まず、副学園長先生より、小中一貫教育の取組みの様子や、教員として働く喜びなどの説明を受けた後、校舎の案内をしていただいた。小学校の敷地と中学校の敷地は、元々、バス通りを挟んで併設されていたが、一貫校となるのを機に、そのバス通りの上に「なかよしばし」と名付けられた連絡橋が設置され、児童・生徒が、雨に濡れることなく往来することが可能になったという。

3・4時限目の授業参観は、学生たちが希望する校種・学年・教科の教室に分かれて自由に参観させていただいた。

昼休みは、児童・生徒と一緒に給食や弁当を食べ、その後の清掃活動にも参加した。

学生は、5時限目も引き続き「なかよしばし」を自由に往来しながら、一貫校ならではの9年間の子どもの学びの様子を参観させていただいた。9年間を「4・3・2制」に区切って見直し、発達段階に応じて教育課程を工夫するなど、子どもを取り巻く様々な教育課題に対して、最新の解決方法の一例を目の当たりにすることができた。

(3) 高等学校

最初に、校長先生と教頭先生より学校概要の説明を受けたあと、3・4時限目の授業を参観させていただいた。学生は、各自が取得予定の教科の授業を中心に参観した。

高校を卒業してまだ間もない1回生の段階で、自主的に高校現場に足を運ぶことで、教育実習に赴く前に、教師の視点で学校教育を認識することができただけでなく、先生方が、生徒との触れ合いを通して様々な取組みや工夫をされていることを知ることができた。

授業参観後の「振り返り活動の時間」では、校長先生や教頭先生から、大阪府立高等学校の再編整備や学区制の課題等の説明に加えて、教職員の服務や人事評価制度の概要などのお話も伺うことができた。教育公務員特例法など、一般公務員とは異なる心得が必要なこの職業の特性の一端を知ることができた。

6. 学生の学び・意識変化

(1) 小学校

- 今まで思い描いていた教師像と実際に現場で教えている教師とでは思っていた以上に異なっていて驚きました。1日とはいえ、学校現場の臨場感や緊張感が分かり本当に良かったです。
- 将来教師になるのなら、もっとしっかりしないといけないと思いました。クラスをまとめなければならないし、一人ひとりの個性を伸ばさなくてはならない。これからもっと勉強して素晴らしい小学校の先生になりたいと思いました。
- 中学生の時に職場体験で小学校に入って以来の現場でした。初めて、教師の立場で現場を見て、責任の重大さを感じましたが、今回の「お仕事入門」で、先生になりたいという意欲がさらに高まりました。
- 授業中に子どもたちを集中させる方法や、安全を確保するための約束ごとの教え方など、今まで見えていなかったことがたくさん見えた気がします。現場でたくさんメモしたことを活かして、自分の夢である教師につなげられるようにしたいと思いました。

(2) 小中一貫校

- 小学校か中学校の教師になりたいと考えていましたが、9年間というスパンの中で、一貫性のある生徒指導や学習指導を継続することの有効性をお聞きして、小中連携の大切さというものが初めて分かったような気がしました。
- 1年生から9年生（＝中学3年生）と一緒に掃除や委員会活動を行うことや、学年を超えて交流する機会がたくさん設けられていることに驚きました。小中一貫教育の良さの一面を発見でき、多くのことを学びました。
- 3年生の英語の授業では電子黒板を使用したり音楽を流したりしていて、異文化の言葉を楽しくわかりやすく伝えていたことが印象に残りました。また、給食を一緒に食べてみて、食育の重要性も改めて実感させられました。直接子どもたちから「こんにちは」という挨拶をされてとてもうれしく感じました。現場を見ることの大切さがよくわかった「お仕事入門」でした。

教師のお仕事入門

- コミュニケーション能力を育成しやすくするために、教室の机の配列が、子ども同士で相談しやすい「コの字型」になっていました。1年生の教室では活発に意見が出ていましたが、8年生の教室に行くと、思春期の影響で恥ずかしいのか、コミュニケーションが取りづらくなっている場面もあることがよくわかりました。また、中学生が小学生の給食の準備や掃除を手伝うなど、実社会において必要な異年齢の触れ合いを学ばせることも一貫教育のめざすものだと知りました。今日の体験をもとに大学生活を精一杯頑張り、早く先生になりたいと強く思いました。

(3) 高等学校

- 高校を卒業してまだ半年の私が、今回こうして先生の立場で高校の授業を見学させていただくというのは、少し不思議で刺激的な体験でありました。今の自分の力では教採合格は到底及ばないことを改めて知ったうえで、「やはり教師になりたい！」と思えた「お仕事入門」でした。
- 教育学部の大学生として高校の英語授業を見てみると、先生方の授業の進め方や工夫には、常に生徒やクラスの実態を考慮していることが見て取れました。「生徒一人ひとりが自分で勉強しようと思うような授業づくりが理想」とおっしゃっていたのが印象的でした。
- 「教科の力を身につけなければ生徒はついてこない。」という考え方と「人間的な魅力を身につけなければ生徒はついてこない。」という考え方があったことがわかりました。真逆のように聞こえますが、両方の力を併せもった教師になれるように大学生活を送っていきたいと思います。
- 今回の「お仕事入門」ではたくさんの収穫があり、貴重な体験となりました。教師という仕事が想像していたより何倍も難しいということが少し分かった気がしました。また、社会のニーズに応じた教育の大切さということも教えていただき、それに応えられる良い教師になるために大学生活でより多くのことを学ぶ必要があることに気づきました。

7. 成果と課題

(1) 成果

学生のモチベーションの高さに応じて、さまざまな成果があったと思われるが、ここでは主に、二点に絞って記すことにする。

一点目は、学校現場を訪問して、多くの学生が初めて「教師の視点と立場」で学校を見ることができ、その結果、1回生の段階で、教職へのモチベーションをより高くすることができた

教師のお仕事入門

点である。学生の言葉を借りると、いわゆる「やる気スイッチが入った。」ということである。

本学の4回生で教員採用選考テストに合格した学生たちに「いつごろから本気になって教員になるための努力を始めたのか。」と尋ねると、その多くが「3回生の後半くらいから。」と答え、「もっと早くから本気モードになっておけば良かった。」と振り返ってくれた。その本気モードになるための「秘訣は何か」の質問には「教育実習よりも早い段階で学校現場を知り、子どもと触れ合う機会をもつこと。」と答えてくれた。その心は、「緊張はするけれども、学校現場に自ら足を踏み入れて、先生方や子どもたちと同じ空気を吸う体験を続けていると、教員になりたいという『漠然とした思い』が、いつしか『確固たる信念』に変わっていきました。学校現場に行くことで少し忙しくはなっただけで、日々の大学生活に目的意識が芽生え、メリハリのある大学生活が送れるようになりました。」と答えてくれた。どうすれば本気になれるのかの答えの一つが「教師のお仕事入門」体験の中にありそうである。

二点目は、小中一貫校を体験した学生たちが「9年間のスパンで義務教育を継続すること」の大切さを学んだことである。

「総合的な学力を向上させるために、自尊感情や規範意識をいかに醸成するか。」という今日的な教育課題に対して、即効性のある解決策ではないものの、新たな「4・3・2制の学校の仕組み」や「義務教育9年間を見通した子どもの育ちと学びの系統性」を意識した教師の取組みを垣間見ることができたことは、将来どの校種を志望する学生であれ、実に有意義なことであったと思われる。

学生たちは、「子どもの視点と立場」から見えてきた課題に対し、子どもの発達段階に応じた一貫性のある生徒指導や学習指導を継続することの大切さを学ぶことができた。

昨今、自治体によっては、小中一貫教育の推進を視野に入れた教員採用選考枠を設けるところもある。学生たちは、自分の志望校種と異なる校種に身をおくことで、子どもの発達段階に応じた教育の在り方を実感し、自分がどの成長過程での教師として適しているのかを見極める絶好の機会となったのではないだろうか。

(2) 課題

小学校の体験校は本学と隣接しているため、大学の授業期間中である6月と7月に実施可能で、本年も多数の参加者があったが、反面、授業の空き時間を利用した体験となるため、小学校での滞在時間が限られてしまった。一方、9月の場合、大学の長期休業中であるので、参加者は時間的に余裕があり、給食指導も含めて様々な教育活動を体験することができた。今後は、大学の授業期間中に学生がゆとりをもって実施できるような本学の体制作りを検討することが望まれる。

小中一貫校については、前期・後期とも大学の長期休業中の実施であるため、じっくりと参

教師のお仕事入門

観・交流体験ができるが、参加者が少ないという課題が残った。今日的教育課題の一つである、いわゆる中1ギャップ等への対応策を体感するためにも、一貫校での体験は大変貴重であるため、参加者数を増やす働きかけを徹底していきたい。

高等学校については、本年度は前期・後期とも2校に受け入れていただくことができたが、見学を希望する教科が集中するため、教科ごとの参加可能人数について、受入校との調整が今後必要である。

8. 終わりに

卒業時に教員免許を取得する学生は数多くいるが、1回生の時点で実施されるこの「教師のお仕事入門」に参加する学生はそれほど多くない。しかし、入門を体験した学生の意識変化にもあったように、「今の自分の力では教採合格には到底及ばない。」ことを改めて知ったうえで「やはり教師になりたい!」という夢をあきらめさせない最も効果的な方法は、この「教師のお仕事入門」のような、「少しでも早い時期の仕掛け」なのではないだろうか。社会状況を鑑みて、学外実習を1年次からカリキュラムに組み入れ始めた大学や、高校生を対象に教採セミナーを開催している自治体や大学もあるくらいである。4回生になって「敵を見て矢を矧ぐ」ことのないように、1回生のうちから「敵を知り、己を知る」ことのできる仕掛けの充実・拡大が求められている。

今後、教師を志す学生の多くが1、2回生のうちに「学校現場を継続的に体験」できる態勢が整えられれば、学生は自分が見聞した体験に基づいて教師像を描き、大学において「自主的」かつ「モチベーションの高い」学びを継続しやすくなると思われる。大阪大谷大学でそのような学びを獲得した多くの学生が教採合格を勝ち取り、現場経験を重ねるにしたがって、続々とその能力や資質を開花させることを願うとともに、子どもや保護者から信頼される教師となり、子どもとともに生涯学び続ける教師として成長してくれることが、我々、教職教育センター教職員の夢なのである。